

1 学校教育目標	
教育目標……………	I 豊かな人間性や社会性を育成し、多様な社会を主体的に生き抜く資質や能力を養う II 基礎力や汎用力を育み、知的好奇心をもって生涯にわたり学び続ける意欲を高める III 自らの心と身体を大切に、健康や安全を意識して活力ある生活を送る基礎を培う
育てたい生徒像……………	I 豊かな人間性や社会性を備え、自らの意志で未来を拓こうとする高い志をもつ生徒 II 学ぶ喜びを知り、基礎・基本の上に幅広い応用力を培い、自ら伸びようとする生徒 III 勉学や部活動を通して心身ともに成長し、他を思いやり、社会に貢献できる生徒
めざす学校像……………	I 人間力と自己有用感を向上させ、ともに夢を語り合える学校 II 知的好奇心を大切に、主体的な行動力と汎用力を育む学校 III 活力と規律ある教育活動を展開し、地域から信頼される学校
今年度の重点目標…………… ○「知」「徳」「体」の調和を図り、主体性を伸ばす教育活動の展開	

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と連携し、指導計画を検討・対応する必要がある。生徒の主体的な学習習慣については、生徒により差が大きく、習慣を身につけさせる更なる努力が必要である。3年間を見通した学習指導のあり方、教育課程の検討等を学校全体で取り組む。
【生徒指導】	生徒による自治意識の醸成をめざし、生徒会、各種委員会活動の活性化を図ってきた。生徒の主体性も着実なものとなりつつある。また、地域貢献の意識が芽生え始め、さらなる視野の拡大や人間性の向上が期待される。
【進路指導】	進路の年間計画に従って、模試・課外・「総合的な学習の時間」の内容を企画・実施し、平成28年度卒業生の国公立大学合格者は35名で、ほぼ前年並であった。課外については生徒の参加を促進するとともに、「総合的な学習の時間」については内容を充実させる必要がある。模試は結果の分析を深め生徒に還元し、生徒の進路実現を目指していく必要がある。
【学校運営】	教育目標の達成にむけて様々な活動に取り組んでおり、それを継続させるとともに、生徒がいきいきと学校生活を過ごせ、また職員も疲弊しないような学校組織のあり方を考えていく。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	
【学習指導】	朝学や課題、課題考査など様々な取り組みにより家庭での学習時間を増やし、生徒の主体的な学習習慣をサポートする。特に中学校から1年次への学習指導については重点的に取り組む。また、成績不振者の減少に向け、早めに各教科担当・担任(学年)と協議し、補習・課題等も含め、共通理解を図りながら対応する。
【生徒指導】	生徒会、専門委員会の活動の更なる活性化を図り、他者との協働を通して、自治意識を育成する。また、地域とのつながりを重視し、様々な活動を通して、広い視野をもち社会貢献できる人間育成を目指す。教育相談体制の一層の充実を図り、生徒が抱える諸問題に対応する。スマホ使用時間のコントロールやマナーの向上を図る。
【進路指導】	模試や課外を充実させ、希望進路実現のための学力を定着させる。キャリア教育についても計画を確実に実施していく。
【学校運営】	業務の効率化を図り、職員が気持ちに余裕を持って生徒に接することで、教育効果が上がるような取り組みを行う。
<チャレンジ目標> 凡事徹底～当たり前のことを当たり前にする！ 1 元気で明るいあいさつ 2 家庭学習時間の充実 3 ケータイ、スマホにとらわれない生活	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	・生徒の基礎学力の定着	・成績不振科目を保持する生徒を一学期より把握し、教科・担任・学年と連携を図るとともに教務としても対応する。 ・補習等については各教科が実施できるよう体制を整える。	4 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5%以内であった。 3 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5～10%であった。 2 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の10～15%であった。 1 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の15%以上であった。	3	3年生については、成績不振、時数不足が数人みられたが、追考査・補講により全員卒業予定である。 1・2年生についても、複数の科目で成績不振となっている生徒もいるが、教科・担任・学年と連携し、1学期から成績不振科目のある生徒を把握し、保護者・本人との面談等の指導を行った。複数の科目で欠点をもつ生徒を重点的に指導・支援している。学年末考査にしっかりと取り組ませたい。	学習指導において、成績不振の生徒を増加させないよう、日常的に教科担当や保護者と連携し、支援している点が評価できる。 公開授業で授業参観をした際に、生徒が非常に熱心に取り組む、集中力が高い様子に大変驚いた。教員もそれに応えるべく、今後とも教材研究や授業改善に取り組んでほしい。	A
	・教職員の指導力の向上	・生徒による授業評価を実施し、授業の工夫や改善を行う。	4 年間2回以上実施し、授業の工夫改善に効果があった。 3 年間1回実施し、授業の工夫改善に一定の効果があった。 2 一部に実施できない教科、個人があった。 1 全教科実施しなかった。	4	今年度も生徒対象に授業アンケートを年2回実施し、生徒による授業評価を行った。アンケート結果を各教科で共有し、授業の工夫・改善につなげている。		
	・公開授業による研修、教員間の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	・生徒による授業評価を実施し、自教科を2回、他教科を1回参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 3 全教員が年1回の公開授業を実施し、自教科を2回参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 2 全教員が年1回の公開授業を実施し、自教科を1回参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 1 全教員が年1回の公開授業を実施し、授業の工夫改善に取り組んだ。	4	9月19日(火)～10月2日(月)に実施し、全教員が相互に授業参観を行った。各教科で授業力向上に向けて研修を深め、気づきや意見を交換しながら、授業改善に取り組むことができた。			
進路指導	・学力の向上や進路目標実現のため、進路ガイダンスの充実、また課外の効果的な活用を図る。	・発展的学習内容を定着させるため、課外の効果的活用を図る。	4 学期中の課外の出席率が75%以上であった。 3 学期中の課外の出席率が65%以上であった。 2 学期中の課外の出席率が55%以上であった。 1 学期中の課外の出席率が45%以下であった。	4	1学期の課外の出席率は、2学年で94%、3学年で84%であった。1学年については1学期には課外を実施してない。2学期の課外の出席率は、1学年で95%、2学年で96%、3学年で92%であった。	地元の公立大である、山口東京理科大と連携し、大学内で、長時間学習や模試を実施したり、また、高校に講師を招聘して、大学説明会を実施したりするなど、生徒の学力向上や進路意識の醸成に積極的に取り組んでいる点が非常に評価できる。 模試の分析会などを通して、生徒の実態把握やそれについての教員の共通理解を深め、より進路指導の効果が上がるよう引き続き努めてほしい。	A
	・進学校としてのキャリア教育を充実していく。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年ともほぼ計画通り実施した。 3 各学年とも80%程度計画通り実施した。 2 各学年とも60%程度計画通り実施した。 1 各学年とも40%程度しか計画通り実施できなかった。	4	1年生は文理コース説明会や進路講演会、大学訪問、2年生は出前講義、進路講演会、3年生は進路講演会、小論文講座、面接講座など予定通り実施し、生徒の進路意識を高めるよう努めた。		
	・全員受験の模試について結果分析会を各学年で行う。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年合わせて5回実施した。 3 各学年合わせて4回実施した。 2 各学年合わせて3回実施した。 1 各学年合わせて2回以下しか実施しなかった。	3	1学年・3学年については、ベネッセから講師を招いて分析会を実施した。2学年については2学期に進路指導部・学年で分析会を実施した。また、2学年についてはベネッセから講師を招いて分析会を2月21日に実施する予定である。これと別に1学年・2学年については、スタディーサポートの分析会も実施した。		

生徒指導	・生徒の主体性を尊重し、生徒が自ら考え、他者と共働しようとする姿勢を育む。	・「生徒会」や「各種委員会」を中心に、学校生活での課題を見つけ、その解決を図ることにより、自治意識を高める。	4 「意識向上につながった」と思う生徒が70%以上であった。 3 「意識向上につながった」と思う生徒が60%以上であった。 2 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以上であった。 1 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以下であった。	4	生徒会、学級委員会、交通委員会などの各種委員会が年間を通して、積極的に活動した。新しい取り組みとして、警察とともに「少年リーダーズ活動」を行った。校外に目を向けることが、自分たちの生活を見直すことに繋がり、校内での委員会活動のますますの活性化へとつながった。自治意識がかなり定着してきている。	日常的に生徒の校外での様子を見ていて、あいさつをよくするなどの態度も良く、教員と一体となって地域に貢献しようとする姿が見られる。今後とも、自主性、主体性を持った生徒を育てるべく指導をお願いしたい。	A
	・教育相談体制の充実	・生徒が抱える問題を早期に発見するために、アンケートや情報交換会等を実施し、指導に活用する。	4 各学年年4回以上の情報交換会を実施し、指導に活用した。 3 各学年年3回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 2 各学年年2回以下の情報交換会を実施し、指導に活用した。 1 各学年とも情報交換会が年1回以下に留まり、指導への十分な活用ができなかった。	4	様々な悩みを抱える生徒に対し、速やかにかつ細やかに対応した。学年での情報共有と一致した対応、保健室・教育相談室との連携、管理職への報告連絡相談が十分に図られた。SCの助言を参考にし、共通理解が得られた方針の下で指導・支援を行うことができた。いじめについてもアンケート内容を改善し、早期にささいなことでも発見できるよう努めた。	いじめの案件がないことは非常に良いが、気を抜かず、生徒の様子を観察、早期の対応等を心がけてほしい。	
図書視聴覚	・読書活動を通して、生徒の豊かな心を育てる。	・1、2年生は、年間10冊本を読み、読書ノートを作成し、人間性を磨いていく。	4 80%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 3 60%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 2 40%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 1 40%未満の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。	4	ほぼ全員の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 山口県読書ノートコンクールにおいて、優秀賞2名、優良賞2名、入選6名であり、優良学校賞を受賞した。	図書委員会の活動において、市立図書館と連携するなど、地域への貢献が顕著であった。また生徒の読書活動の意識も高く、コンクールなどでも成果を上げた。今後とも図書館の利用促進に向け、様々な工夫、改善などの取り組みをしてほしい。	A
	・学校図書館の環境を整備し、図書の貸出率を上げる。	・学校図書館の環境を整備し、図書の貸出率を上げる。	4 学校図書館の環境を十分に整備し、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 3 学校図書館の環境整備が80%でき、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 2 学校図書館の環境整備が60%でき、図書の貸出率が昨年度並みであった。 1 学校図書館の環境整備が不十分であり、図書の貸出率が昨年度より下回った。	4	夏期休業中に、蔵書点検を実施し、破損本を廃棄手続させた。図書館に新たにパソコン3台を設置し生徒が利用できるようにした。 小論文対策コーナーを充実させ、図書の貸出率は、昨年を上回った。		
保健体育	・生徒の「健康自立」「生活習慣病予防」に向けた活動の推進	・健診後の特に歯治療率、眼科再診率共に70%を目標とする。生徒保健委員会および保健体育科教諭による啓発活動、勧告等を通し目標達成を目指す。	4 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に70%以上であった。 3 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に60%以上であった。 2 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に50%以上であった。 1 う歯治療率、眼・耳鼻科再診率共に50%未満であった。	4	今年度の「う歯要治療者」が203名であったが、1月末時点で192名が治療済み(治療率94.6%)である。残り11名も現在治療継続中で、3月には全員治療完了(治療率100%)が見込まれている。同様に、「眼科要再診者」は187名であったが、全員再診完了(再診率100%)した。具体的方策をきちんと実践したことで目標数値を大幅に超え、来年度に向けての基盤ができた。(ちなみに昨年度は両方とも約50%)	単に生徒の健康診断を行うだけではなく、「健康教育」に向けて再診率、治療率を昨年度と比べ、飛躍的に上昇させた。生涯、健康であるべく、生徒の意識づけに大いに寄与した。	A
	・清潔で事故のない学校環境づくりを推進する。	・整美委員会は「用具点検、清掃状況点検」を、体育委員会は「体育施設用具点検」を、保健委員会は「環境点検」を毎月計画的に実施し、改善策を施すことで年間を通してきれいで安全な環境づくりを目指す。	4 毎月必ず各委員会で「点検」を実施した。 3 2ヶ月に1回点検を実施した。 2 1学期に1回点検を実施した。 1 たまにしか点検を実施をすることがなかった。	3	「点検」という見地からは、委員会によっては毎週実施したところもあったが、点検実施の計画を変更して効率化を図った委員会もあり評価を3とした。しかし、総括的には重点目標の清潔で安全な学校環境づくりはできている。3委員会生徒の主体的な活動については、引き続き来年度の具体的方策として継続したい。	学校環境作りに向け、今後とも生徒の主体的活動を継続させてほしい。	
一学年	基礎学力と学習習慣を確立することで進路実現可能な学力を養成する。	・「学びの時間」(1学期定期考査前1週間放課後1時間)や「学習ガイダンス」を通じて、学習習慣の定着を図る。 ・朝学を実施し、再テスト・やり直しを徹底することで基礎学力の定着を図る。 ・進学意識向上のため、進学課外の受講を積極的に勧める。 ・以上のことを模試を通じて評価する。	4 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が75%以上いた。 3 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が65%以上いた。 2 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が55%以上いた。 1 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が45%以上いた。 (夏季休業中の課外を除く)	4	161人中128人が課外を受講し、受講率が80%であるため。今後の課題としては、2学年になったとき、この数字を維持することができるかどうかという点がある。	「学びの時間」や「学習ガイダンス」等により、中学生から高校生へのスムーズな移行を果たし、また、朝学等の丁寧な取り組みを通して、生徒の学習習慣の定着を図った。模試により、その成果が評価できるので、今後とも継続して取り組んでほしい。	A
			4 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が56人以上である。 3 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が48人以上である。 2 7月・10月・1月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が40人以上である。 1 7月・10月・1月のすべての模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が40人未満である。	4	7月の模試において偏差値50以上の者が80名いたため。この数字は過去5年間では最高の値であるが、偏差値56以上となると例年と同じであるので、今後、この数字を落とさないように指導していくことが課題である。		
二学年	・進路実現に向けた学力の定着と伸長を図る。	・朝学小テストや週末課題を計画的に実施し、学力の定着を図る。 ・進学課外の受講率を向上させ、早期に受験体制を整えさせる。 ・2学期後半から3学期にかけて「志望理由書」の作成に取り組ませ、進路目標の早期設定を図る。	4 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が75%以上いた。 3 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が65%以上いた。 2 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が55%以上いた。 1 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が45%以上いた。	4	夏季休業中課外においては、受講率は94%と高く、高い意識を持って講座に取り組んでいる様子が見られた。また、学期中の放課後課外は部活動との両立もあり、受講率は6割程度となるが、いずれの講座も高い出席率を維持している。	生徒の学習習慣、学習内容の基礎・基本の定着、進路意識の高揚など、教員の積極的な取り組みにより、来年度に向け、成果を上げてほしい。そのための方策を早急に考え、是非とも最大限の努力を期待する。	B
			4 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が30%以上である。 3 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が25%以上である。 2 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が20%以上である。 1 10月・1月・2月のいずれかの模試において、3教科総合偏差値が50以上の生徒が20%未満である。	2	10月模試においては、3教科総合偏差値が50以上の生徒は22%程度に留まっている。学年終盤の1月模試・2月模試で当初設定した目標を達成できるように指導していきたい。		
三学年	受験体制の確立	1学期当初から進学課外の受講率を高水準で維持し、学年全体の進路実現意識を高める。	4 進学課外受講率が、75%以上であった。 3 進学課外受講率が、70%以上であった。 2 進学課外受講率が、65%以上であった。 1 進学課外受講率が、60%未満であった。	3	1、2年次には、課外受講率があまり高くない学年であったが、部活動引退後の夏季休業中の課外、2学期課外と75%を超える受講率であった。1学期の受講率が60%台の後半であったため、年間を通しての受講率は約70%であった。 反省点・課題としては、低学年時からの課外受講率をいかに高めるかという点と、進学課外の受け方について、せっかく自分の意志で希望して受講しているのに、受け身な生徒が多い点である。	学習において、1、2年次の反省を踏まえ、生徒の努力を継続させ、成果を上げた。進路指導部と連携を密にし、生徒一人ひとりにきめ細かい、丁寧な指導をし、進路実現に向けて積極的に取り組んだ。	B
	受験に向けた学力の伸長	各担任、副担任、進路指導部との連携を取りながら、必要に応じて担任以外の面談も積極的に取り入れる。  4年生大学、短期大学、専門学校、公務員など多様な進路に対応する面接指導や小論文指導を行っている。	4 国公立大学合格者が、40名以上であった。 3 国公立大学合格者が、30名以上であった。 2 国公立大学合格者が、20名以上であった。 1 国公立大学合格者が、20名未満であった。	3	1月末現在、センター試験を課さない推薦試験において国公立大学14名が合格している。 また、公務員に3名(国家公務員1、山口県警1、宇部市役所1)合格・内定している。 2月上旬に私立大学の受験シーズンを迎え、2月下旬に国公立大学前期試験、3月10日前後に国公立大学中期・後期試験とセンター試験は終了したが、これからの受験本番の時期を迎えている。 1月末に感じる反省、課題は、やはり受験勉強を開始する時期の遅さである。せっかく実力がつきはじめたと感じ始める序盤でセンター試験を迎えてしまうので十分に安定した力を発揮できていない生徒が多い。		
校務運営	本校の良さを積極的に情報発信する。	学校情報「東西南北」(県教委から報道機関への学校情報提供システム)や学校ホームページを活用し、積極的に情報提供を行う。	4 情報提供の取り組みが顕著であった。 3 情報提供の取り組みが十分行われた。 2 情報提供の取り組みが十分とは言えなかった。 1 情報提供の取り組みが低調であった。	3	学校ホームページを活用し、学校情報を積極的に発信することができた。また、部活動や、文化的な活動なども新聞記事で紹介され、本校の特色的な取り組みを発信することができた。	小倉百人一首かるた部を始め、地域と連携し、まちづくりに貢献した取り組みについて、大いに紹介し、ますます特色的な取り組みを続けてほしい。 業務の見直しを更に進め、教育活動を行いやすい環境作り、そして結果的に生徒の成長につながるような取り組みを今後とも継続して行ってほしい。	B
	業務の効率化を図る。	会議の運営方法の改善、分掌間の連携などを通して、業務内容を見直し、業務時間の改善に努める。	4 業務内容の改善への取り組みが顕著であった。 3 業務内容の改善への取り組みが十分行われた。 2 業務内容の改善への取り組みが十分とは言えなかった。 1 業務内容の改善への取り組みが低調であった。	3	部活動の統廃合、文化祭の日程の変更等を行い、次年度の業務改善の礎を築くことができた。		

<p>5 学校評価総括(取組の成果と課題)</p> <p>(学習指導)朝学・課題等により学習時間の確保、基礎学力向上に取り組んだ。長期休業中の課題や山口東京理科大学(センター試験会場)で行う自学自習の取り組み、学期始めの課題考査など効果的な取り組みを実施できた。生徒の主体的な学習習慣をサポートしながら、特に、家庭での学習時間確保が課題である。</p> <p>(進路指導)進学課外出席率は、2学期には平均93%まで上昇させることができた。模試等については、分析会の実施回数を増やすことで、生徒の学力や志望動向を把握する機会を増やすことができた。「総合的な学習の時間」を活用した計画的なキャリア教育の取組は、生徒の進路意識向上に資する一定の成果をあげているものと考えられる。</p> <p>(生徒指導)生徒会、各種委員会など、生徒による主体的な活動の一層の定着が図られた。生徒会を中心として、学校生活における様々な課題について考察を深め、改善を進めることができた。</p> <p>(教育相談)配慮が必要な生徒への早期対応を図るため、関係教員によるケース会議を開催し、情報共有や適切な対応に努めた。また、スクールカウンセラーと緊密に連携することで専門的なアドバイスを含めた支援に取り組むことができた。専門機関に繋げるにあたって、SCを通すことで、よりスムーズに動くことができた。</p> <p>(健康管理)健診後の「う歯治療」と「眼・耳鼻科の再診」がほぼ100%となり、「健康自立」に向けての第1歩が踏み出せたように思う。来年度も継続し、将来的に早期発見・早期治療は当たり前になる学校にしたい。(環境整美・安全点検)保健委員会、整美委員会、体育委員会での活動の助けにより、学校環境は全般的に清潔で安全に保たれている。生徒が自ら学校環境を意識して主体的に活動することを意識させている。ただ、委員会がいくら頑張っても周囲が動かない等の課題もあり、実効性を高めることが課題となる。</p> <p>(図書)学校図書館に関する専門書等に小野田高校の取り組みが2回紹介された。山陽小野田市立中央図書館との連携や、全校読書会等の活動が、全国的にも注目されている。</p> <p>(開かれた学校づくり)学校のHPの更新は、学校行事等、ニュースがあるたびに迅速かつ頻繁に更新することができた。それにより、学校見学会や文化祭についても来校人数が増え、盛況であった。</p>
--

<p>6 次年度への改善策</p> <p>(学習指導)3年間を見通した学習指導のあり方、教育課程等を学校全体で協議していくことが望ましい。成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題のあり方について指導計画を検討する。特に考査週間・考査中の過ごし方について、大きく改善を図る必要がある。小野田高校の特色を大切に、学習指導と特別活動のバランスをしっかりと取っていく必要がある。特に中学校から1年次への学習指導について更に取組む必要がある。小野田高校を中学生や保護者にどうアピールするかは重要な課題であり、公開授業だけでなく、学校見学会・学校説明会等においても、学習指導の改善に取り組んでいる姿勢を紹介していく。</p> <p>(進路指導)課外を受講率や出席率を高め、引き続き生徒の意識向上をめざしたい。また、課外の講座の内容については、3年後から実施される「大学入学共通テスト」への対応も踏まえた検討と改善が必要である。また、キャリア教育のうち「総合的な学習の時間」を活用した取組については、生徒の実態等に即して改善していきたい。</p> <p>(生徒指導)今後も生徒が主体となって考え、活動していく取組の充実により、生徒の一層の成長を促したい。さらに他者や地域に目を向け、貢献できる人間性の育成に努めたい。</p> <p>(教育相談)生徒に関する課題について、担任等が一人で抱え込むことなく、迅速に情報を共有し組織的に対応できるよう、今後とも早期のケース会議、SCとの連携に努めたい。</p> <p>(健康管理)引き続き「健康自立」に向けての早期治療の意識を高めたい。今年度は、啓発に乗ってこず、再診や治療完治がかなり遅れた生徒もいたので、来年度は早期治療を目指すしかけを早くからしていきたい。(環境整美・安全点検)現在の環境を維持しながらも、上記にあるように、1人ひとりの生徒が「環境美化」や「安全」に対しての意識が高まるような方策の策定も考えていきたい。</p> <p>(図書)校内の生徒アンケートの「図書館を積極的に利用している」という項目に対して、生徒の回答が低いのが課題であり、今後改善に向けて工夫していきたい。</p> <p>(開かれた学校づくり)地域との連携を更に強化し、それを発信することで、ますます地域から信頼が得られるような学校づくりに臨みたい。</p>
--